一休合同会社(IKKYU G.K.)

Kyushu Bureau of Economy, Trade and Industry
2019.06
ヒアリング

九州の食と文化を世界へ

企業概要

社名：一休合同会社(IKKYU G.K.)
創業者：Stephane Camus,Aldo Bloise,
Joelle Sambuc-Bloise
所在地：〒814-0171
福岡県福岡市早良区野芥8-29-7
TEL：092-407-1721
URL：https://ikkyu-tea.com
設立：2016年5月
業務内容：九州産緑茶の海外向け販売

一休合同会社は、外国人に向けた日本茶の販売会社です。IT&IP Strategy Advisory 日本支社において、日欧貿易に関わっていた経験を活かし、外国人に向けたブランディングに特化して事業を行っています。

来日して知覧茶と出会い、質の高さに驚いた一方で、英語のサイトや資料もなく、海外に向けたプロモーションが足りていないと感じました。海外では日本茶の需要が高まっている一方、日本の農家はそれほど海外市場に目を向けていません。両者のギャップを埋め、海外に九州のお茶の魅力を広めたいという想いが私達の原動力です。

九州のお茶は、玉露に限らず、一般的な煎茶や抹茶であっても品質が高いことが特徴です。また、他の地域にはない品種があり、多様な品種を選択できることは外国人にとって大きな魅力です。

一方で、世界的に有名な宇治茶や静岡茶と同等以上の品質にも関わらず、海外における知名度は低いという現状があります。また、海外のスーパーでは、品質の低い日本茶が高値で販売されています。このため、弊社の目線で選定した高品質のお茶のみを取り扱い、オンラインで世界に向けて販売しています。

弊社の商品は、農家と直接取引していることから、低価格で提供できることが強みです。また、和紙でラッピングを行っており、外国人好みのパッケージデザインや英語表記のティーレシピが外国人から高い評価を受け、お土産としても人気です。

福岡で世界を見据えたビジネス展開

福岡は、ビジネスコストが低く、交通の便が良く、街がコンパクトにまとまっていて、それに加え、住居費用が安く、街と自然が近く良好な環境であるため、ビジネス環境としても住環境としても快適な街です。

日本でビジネスをする場合、東京・大阪などの大都市の方が有利であるイメージがありますが、福岡だからこそ実現できることもあります。例えば、企業と打ち合わせをする場合、電車での移動を考慮すると東京・大阪では一日に２社程度が限度ですが、福岡では自転車で移動し、より多くの会社を訪問することができます。

一方で、日本でビジネスを行うには、何か行動を起こす際に、常に多大な時間と労力とお金が必要となります。

まず、ビザの取得・在留資格の更新の度に詳しい説明が必要です。次に、外国人が日本で契約する際のハードルの高さです。オフィス賃貸借契約、資金借り入れ、クレジットローンの保証人等なかなかスムーズに進みません。また、クレジットカード・携帯電話の契約においても同様で、日常生活の面での苦労も多々あります。

もう一つは、日本と欧米の商文化や商習慣の違いです。欧米では自宅とオフィスを分ける感覚はありませんが、日本で同じ方法をとると、信用が得られにくいこともあります。

他にも、欧米は無料で海外送金が可能であるのに対し、日本は多額の手数料がかかり、その事実を欧米の取引先に理解してもらう必要があります。

そして特に難しい問題は、日本と海外のビジネスにおけるスピード感覚の違いです。弊社は九州の農家と直接取引をして商品を海外に販売していますが、日本のビジネスのスピード感覚で仕事をしていては、世界市場の需要を獲得できません。日本企業も、海外展開する際に迅速なレスポンス、事業を進める即決力を心がけ、会社全体の意識を改革する必要があると感じています。

弊社が現在取引している幅広い世代の農家は、海外市場に対する理解があり、一旦取引を始めれば、その後のレスポンスは早く、スムーズにやりとりが進みます。弊社は海外企業と同じスピードで取引ができる点が強みです。

九州の魅力を世界に発信

まずは、九州の旅館や土産屋、インフォメーションセンターに商品を置いてもらい、より多くの外国人に手にとってもらうことを目指しています。

また今後は、お茶の商品数の拡大に加え、焼き物や茶器の取り扱いを増やし、お茶を通じたインバウンドの受入も検討しています。お茶を通して、その他の九州の素晴らしい産物のプロモーションに取り組んでいく予定です。

九州のお茶、ひいては九州全体のことを世界中のより多くの人に知ってもらいたいと感じています。